

4-(1)-⑰ 産学官連携

本学は地元自治体(山形県・山形市)が学校法人与大学を新たに設置する「公設民営」方式により設立された大学であるという経緯もあり、芸術・デザイン系大学としては全国に先駆けて開学当初より積極的に地域や企業との連携に取り組んできています。

産学連携オフィスである「共創デザイン室」及び「文化財保存修復研究センター」など、学内の研究機関には年間 100 件を超える相談があり、約 70 件の受託研究に結びついています。芸術・デザインという教育研究の特色を生かし、東北地域になくてはならない大学としての存在感をますます高めています。

【地元関係機関との連携事業等】

創刊 140 周年を迎えた山形新聞社と本学とが地方創生の推進を目的として平成 28(2016)年 12 月に締結した連携協定に基づく事業の一環として、山形銀行の特別協賛のもと第 2 回「YAMAGATA ひらめきコンペティション」を開催した。

協賛企業から課題として出題される商品・サービスについて様々なアイデアを全国から公募し、審査員による審査を経て入選作品を決定するもので、第 2 回のテーマは「ひらめくアイデア きらめく山形」。全国からアイデア部門 439、企画部門 241、ひらめキッズ部門(新設)54 計 734(前年比 27.9%増)の企画書が集まり、山形グランドホテルでのプレゼン大会の結果、グランプリは慶應義塾大学・千葉大学の 3 年生ペアが受賞し、本学ではデザイン工学部の学生 8 名が優秀賞を獲得した。

授業の一環として事務局を務めた企画構想学科の 3 年生約 50 名にとっては、コンペを通じて企画運営・制作を実践的に学ぶ貴重な体験となった。

【共創デザイン室】

例年、県内外の企業や団体・行政機関等から 100 件を超える委託研究やデザイン業務等の相談を受けており、平成 30(2018)年度は、47 件 45,624 千円の受託研究契約を締結するに至った。

本学では産学連携案件を大学の教育活動に積極的に結びつけることを目指しており、県内製造業をはじめ大手メーカー等から寄せられた 47 件の受託案件のうち 45 件が在学生の参画する事業として成立し、プロジェクトに参画した学生数は約 600 名に上った。

また、ひとつの受託プロジェクトに複数の学科・コース等が関わる「横断型」の取り組みも 8 件成立し、参画した学生の専門以外の領域に対する視野も広まるなどの相乗効果も得られている。

【大手企業との連携】

共創デザイン室による受託研究活動以外にも、企業との連携による教育研究活動も活発化している。

エンジニアリングのグローバル企業である株式会社 IHI と本学は、地域発イノベーションにより雇用を創出することを目的に、ビジネスパートナー協定を締結し、学内に共同のラボ(実践型シンクタンク)を開設した。IHI が国内の大学と連携するのは今回が初のケースであり、山形県を中心に企業・個人の価値ある技術・アイデアを探し、IHI 及び本学の技術力・総合力、デザイン・マーケティング

力を掛け合わせイノベーションを創出し、地域に雇用を生むことをゴールとする民間による地方創生事業となる。

連携初年度の事業として今回は大学での定例ミーティングのほか、卒業・制作展での IHI 賞の授与及び同社研究施設での作品展示、共同ゼミなどを展開した。

【文化財保存修復研究センター】

平成 26(2014)年度に策定した『中期ビジョン』に基づき、「寒冷地文化財保存等の研究推進」、「地域文化財保護」及び「文化財保存修復学科との連携強化」の 3 点に注力する活動体制が 5 年目を迎えた。

地域文化財保護の推進にあたっては、連続公開講座を 4 回開催し、寒冷地文化財保存プロジェクトなどセンターの活動に対する一般市民や行政関係者の理解を深めた。地域文化財の保存修復に関する受託研究業務は 25 件 25,098 千円となっている。

今後約 20 年間の長期にわたる修復プロジェクトとなる鶴岡市善寶寺の五百羅漢修復業務では、初めて現地での公開修復を実施するとともに、グラフィックデザイン学科との連携による説明パネルの設置、バナー制作、ロゴマーク制作を実施したことで、センター以外の学科等にも活動が広がりがつつある。今後、映像学科との連携による広報用動画制作及び長期記録動画の制作も検討が進められている。

【高大連携事業の推進】

文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業－生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」を通じて 5 年間にわたり取り組んできた成果を基盤に、高等学校等における探求型学習への支援を通じた連携活動を展開した。

連携協定を締結している県立山形東高等学校及び東桜学館中学校における探究型学習カリキュラム開発支援及び人材派遣支援等をきっかけとして、探究科・探究コースが設置された県内の高等学校 6 校全てから連携及び講師派遣の依頼がなされた。また、県教育庁より探究型学習課題研究発表会の審査員派遣依頼や、県立山形西高等学校をはじめとする探究型学習の導入を目指す県内外の高校より連携依頼があるなど、探究型学習を推進する拠点としての本学への認識が浸透しつつある。